

社会教育実習等報告書

	社会教育実習・インターンシップ・サービスラーニング実習
趣 旨	大学との連携・協力のもと社会教育実習等を受講する学生を対象として、青少年教育の現状及び青少年教育施設の役割について、体験を通して学習する機会を提供するために社会教育実習生等の受け入れを行う。
期 間	平成28年9月11日（日）～平成29年3月5日（日）
募集人員 (募集結果)	社会教育実習 (東北学院大学7名) インターンシップ (福島大学1名) コミュニティサービスラーニング実習(昭和女子大2名 桐蔭横浜大学7名)
① 事業の特色	
<p>この事業は、社会教育実習等を希望する学生に対して体験を通じた学びの機会を提供することを目的に、自然の家の業務を通じた実習を行った。また、期間中に利用している小学校のプログラムや教育事業の補助として参加し、社会教育についての理解を深めた。</p> <p>〈実習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義：3単位 ・ 実習：教育事業の補助、研修支援の補助、団体プログラム参加、施設環境整備 学生自主プログラム等 	
	
<p>【施設整備研修】</p> <p>宿泊部屋の点検を行いながら社会教育施設の理解を深めた。</p>	<p>【教育事業 運営補助】</p> <p>教育事業の運営補助をしながらプログラム構成や実施方法を学んだ。</p>
② 事業の成果と課題	
<p>〈事業の成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の家の業務や事業を通して、社会教育施設や社会教育事業について学ぶ機会を提供することができた。 ・ 学生自主プログラム「生活環境に関わる精神的安定とその成果の調査」をテーマに利用団体の小学校と連携を取り調査研究を行った。 <p>〈事業の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設整備日や教育事業に実習日程を重ねたいのだが、大学側との日程調整が難しい。 ・ 連携をとる利用団体とのプログラム連絡調整が難しい。 	
③ その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・ セカンドスクールの教育支援スタッフとしても関わる場合があるため、どの学生に対しても十分な事前指導を行っていく必要がある。 ・ 長期間の実習になることが多いので、実習生の体調管理やメンタル面での補助をしていく必要がある。 <p style="text-align: right;">(企画指導専門職 西村 孝幸)</p>	